

石狩本町の石狩温泉バス停を起点に堤防上を進みます。遙か前方に増毛山地等の山並を望みながら、石狩川の雄大な流れに沿って進むと、そこは海浜植物の宝庫「はまなすの丘公園」。灯台を過ぎ、植物を楽しみながら木道と管理用道路を行くと、大河が長い旅の果て海に出会う河口部に到達。帰路は選択により日本海の砂浜を潮風に吹かれな

がら、石狩湾を全身で満喫できる、まさに川と海が育んだ多様な自然に出会える絶景のルートです。また、「弁天歴史通り」を進むルートでは、石狩発祥の地である本町地区の歴史スポットを巡ることができ、この地の400年にわたる人々の営みの変遷を垣間見ることができます。自然と歴史を十分に堪能して下さい。



石狩温泉
このあたりは、江戸時代は北前船などの寄港地として、昭和の中頃までは遠洋漁業船や鮭漁の機船の出入りで賑わい、また、江別などへの定期船の発着地でもありました。現在は漁業者がワカサギ漁などで利用しています。

石狩市観光センター
簡易郵便局 札幌ATM

本町地区
江戸末期に石狩場所としてサケ漁で栄えた石狩本町地区は、昭和53年まで、動く国道といわれた石狩川河口渡船が行き交う交通の要所でもありました。しかしサケ漁の衰退、昭和50年前後の石狩川堤防建設時の立ち退きによる人口減少、さらに石狩河口橋開通により、今は往時の賑わいはありません。また、江戸末期の石狩川河口は現在の八幡神社のそばにありました。

- スタート・ゴール
- 見どころ・名所
- ビューポイント
- 眺める方向
- 海浜植物群生地
- トイレ
- 駐車場
- バス停
- 道
- 舗装道路ルート
- 木道
- 冬期休館 未舗装道路ルート

弁天歴史通り周辺の見どころ・名所

- 旧長野商店**
越後出身の長野徳太郎が明治7年創業した呉服雑貨商家で、明治27年に石店店舗を建築。親船通りに面して位置していたが、平成19年に現在地に移設復元。
- 石狩弁天社**
1694年創建された道央最古の神社で、1815年に場所請負人の村山家が再興する。主神は弁財天だが、鮭に鮭の神として石狩独特の鮭さま(道指定文化財)などが祀られる。
- レリーフ「先人たちの碑」**
函館奉行支配副役並荒井金助とアイヌの人々をメインモチーフとし、運上屋、北前船、鮭地引網、農耕などを石狩川の流れの中に表現して、石狩の先人たちの語っている。
- 運上屋棟**
弁天歴史公園の管理棟であり、江戸時代までアイヌと和人の交易や宿所として利用された運上屋をイメージして建てられた。ホールには歴史の展示がある。
- 石狩八幡神社**
ロシア南下の脅威に備え「東西蝦夷地総鎮守」を目的に1858年に八幡町に創建。1874年に現在地に移設。
- 金龍寺**
1859年建立された日蓮宗の寺。石狩独特の鮭の神様が祀られている。
- 金大亭**
鮭漁が最盛期だった明治13年に石黒サカが創業した鮭料理専門店。建物は創業当時の明治建築が基礎となっている。
- 石狩尚古社資料館**
安政年間に創設された道央最古の俳句結社「石狩尚古社」の俳句資料を中心に、明治期の石狩を代表する商家、中島家が収集した歴史資料を展示する私設資料館。

石狩灯台
明治25年、初点灯。木造六角の白黒塗り。明治41年、鉄造円形の白塗りに改築された。明治期の灯塔がそのまま現在も残る北海道唯一の灯台。昭和32年、映画「喜びも悲しみも幾年月」のロケの際、カラー撮影の効果を出すため赤白横線(縞)塗りに変更した。昭和40年、無人化。平成11年、海側に14m移転(高さ13.6m)。現在も、20秒間隔、75000カンデラの明るさで点灯、稼働中。

はまなすの丘公園
面積約46haの砂嘴上にハマナス、ハマボウフウ等の海浜植物、ノハナショウブ等の湿地性植物を含めた約180種の植物が自生する自然公園。春はイソスミレに始まり、秋はハマナス、アキグミの実まで、季節を通じて花や実が楽しめる。年間を通して吹く強風により背が低くなったハマナスの群生は特徴的。また、ヒバリ、ノビタキ、ノゴマ等の草原性の野鳥、シギ・チドリ類をはじめとする水鳥、オジロワシ・オオワシの海鷲類など一年中、野鳥観察ができる。
海側16.5haは、石狩市が昭和53年から海浜植物等保護地区に指定し守ってきた。保護地区はもちろん、公園内は散策路以外への立ち入り、植物採取は禁止。
※石狩市は、石狩海岸の植生保護のために保護地区(立ち入り・植物採取禁止の「生態系保護地区」と車等の乗り入れを禁止する「自然ふれあい地区」)を拡大指定している。

【観察される主な植物】
不安定な砂地：ハマニンニク、コウボウムギ、ハマニガナ、ハマボウフウ等
やや安定した砂地：ハマナス、ハマエンドウ、ハマハタザオ、イソスミレ等
安定した砂地：エソスカシユリ、エゾカワラナツバ、エゾカワラマツバ、ノコギリソウ等
湿地：ノハナショウブ、タチギボウシ、ナガボシロワレモコウ、クサレダマ、キショウブ等

コースのルート/距離/所要時間

赤コース 全長7.3km 所要時間約2時間
ルート…石狩温泉バス停→A河口の碑→Bあずまや→C河口→Dあずまやへの分岐→Eあずまや→F木道→Gヴィジターセンター→F青コース1合流点→C無辜の民合流点→石狩温泉バス停

緑コース 全長7.5km 所要時間約2時間
ルート…石狩温泉バス停→弁天歴史通り→Eヴィジターセンター→木道を通って赤コースに合流

青コース1 青コース1 区間1.2km 所要時間18分
ルート…Dあずまやへの分岐→青コース1→分岐→F青コース1合流点

青コース2 青コース2 E-G区間0.9km 所要時間13分
ルート…Eヴィジターセンター→F青コース1合流点→分岐→青コース2→C無辜の民合流点

アクセス

車
札幌市から約40分
石狩市花川から約20分

バス
北海道中央バス(石狩線)
「札幌ターミナル」発 約1時間
「石狩温泉」、「石狩」下車

砂嘴(さし)
沿岸流により漂砂が堆積してきた地形を砂嘴といいます。ここでは石狩川の運ぶ砂と日本海からの強風と沿岸流の働きで作られました。本コースの本町地区を過ぎたあたりからは砂嘴上のコースです。明治25年の石狩灯台完成時、灯台から200mほど先にあった砂嘴の先端は、今は1500m先に移動しました。先端の形は季節的に変動しています。



石狩海岸 フットパス



石狩本町から河口まではまなすの丘公園をめぐるみち

制作・編集・発行: いしかり海辺ファンクラブ

フットパスのマナー

- ゴミは持ち帰りましょう。
- 砂丘を崩したり、植物を傷つけないようにしましょう。
- 住んでいる人の生活と仕事に敬意を払きましょう。
- 港や船着き場を通る時は、作業者の邪魔にならないように注意しましょう。
- 漁具に触れないようにしましょう。
- 不必要な騒音は立てないようにしましょう。

フットパスを楽しむための注意

- 長時間歩くのに適した服装、装備をご用意ください。
- 砂浜や砂丘では、バギー車やバイクの走行に気をつけましょう。
- 道路を歩く時は、車に注意しましょう。
- コースによってはトイレや休憩場所が少ない場合があります。出発前に用を済ませてから歩きましょう。

ご利用の際の事故や怪我は自己責任となります。無理をせず安全第一でお楽しみください。

石狩海岸(石狩市本町地区)へのアクセス

Car

- 札幌方面から国道231号線を留萌方面へ。志美交差点を左折、道道225号線を約3km。
- 留萌方面から国道231号線を札幌方面へ。石狩河口橋を渡り右折し約3km。

Bus

- 北海道中央バス「石狩線」「札幌ターミナル」乗車約60分、「石狩温泉」下車。

お問い合わせ先

北海道大学大学院 農学研究院 気付 TEL&FAX: 011-706-2451 (担当:松島)
 mail: iufc.office@gmail.com web: http://ishikari-umibe-fc.jimdo.com
 写真提供: 石狩観光協会・石狩浜定期観察の会・北海道野鳥愛護会会員・いしかり砂丘の風資料館・石狩浜海浜植物保護センター

このパンフレットは一般財団法人セブン・イレブン記念財団の助成により制作しました。 2016.3

石狩海岸の自然

石狩海岸は、札幌中心部から車で45分という大都市近郊にかかわらず、生物多様性に富んだ海辺の自然環境が大規模に残された全国的にも貴重な自然海浜です。

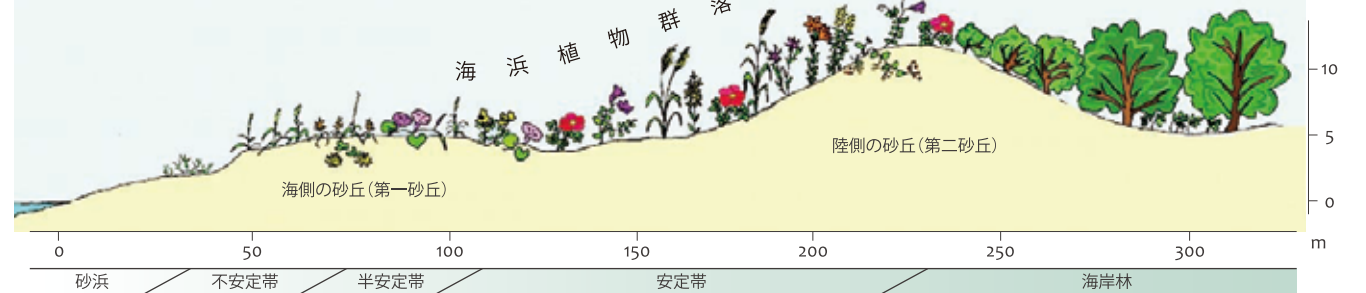
石狩川が運び、北西季節風が沿岸に寄せた砂によって形成された延長25kmにわたる海岸砂丘地形、大規模な海浜植物群落、日本最大規模のカシワの天然海岸林、これらが織りなす海岸砂丘特有の植生、海岸草原や水辺の野鳥、猛禽類、海浜特有の環境に生きる昆虫類等、これらすべてが石狩海岸のすぐれた自然の要素となっています。

海から内陸への植生の連続性

砂浜海岸は本来、海からの距離に応じて和らいでいく環境条件に対応して、植生の帯状の分布が見られ、海から内陸へ連続的に植生が変化していきます。しかし、近年は全国各地の砂浜海岸で、護岸・堤防建設、植林等により、本来の植生の連続性が失われつつあります。石狩海岸は、砂浜海岸本来の植生の連続性が大規模に残る全国的にも希少な自然海岸です。植物に覆われた砂丘は海岸の厳しい環境を和らげ、天然の防波堤として、高波などから背後を守ります。

また、すぐれた景観と快適なレクリエーションの場を提供します。

石狩砂丘の断面と植生変化



カシワの実(9月頃)



冬のカシワ林

新たなルートの設定も計画しています。

望来市街へ至るルート。

石狩市八幡町から石狩川右岸と栗富(シツ)海岸沿いを歩き、望来高台を経て

●石狩川河口右岸から望来へのうみへみち

大規模のカシワ天然海岸林の眺めを堪能するルート。

●石狩砂丘と新港工業団地を巡る道

み、浜辺の自然を感じるルート。途中の花街道では季節の花が観察できる。

●新港東から本町へのうみへみち

の広大な景観、海浜植物群や日本有数の天然カシワ林を身近に観察できる。

●新川河口・旧小樽内川跡とカシワ林の道

旧小樽内川跡周辺を歩くルート。多様な生物が生息する沼、石狩湾と手稲の山並

コーヌ紹介(本マップ以外)



小樽市銭函から石狩市厚田区望来までの約25kmの石狩海岸は、自然のままの砂浜、砂丘上に広がる海岸草原、カシワの天然海岸林が大規模に残る。全国でも希少な場所となっており、北海道自然環境保全指針(平成元年)において、保全を図るべき「すぐれた自然地域」に選定されています。砂丘海岸の豊かな生態系とともに、古くから人々は小樽と石狩をつなぐこの海辺の道を利用してきた歴史があります。近年になり石狩湾新港ができ、新たな開発が行われている場所でもあります。石狩湾の大バゾラのもと、自然と歴史と未来を体験できる数々の道を、あなたも歩いてみてください。

石狩海岸フットパスとは

石狩海岸に生きる生命たち

海、砂浜、草原、森……多様な自然のつながりが多様な生態系を育んでいます。この自然が残されているからこそ、各地で絶滅の危機に瀕している生きもの達が、当たり前のように石狩海岸では見られるのです。



オジロワシ



ハヤブサ



ハマシギ



ハマニガナ



ノゴマ



ノビタキ



エゾカラナデソ



カシワ



ハマニンニク



コウボウムギ



ハマボウフウ



ウンラン



ハマナス



エゾスカシユリ



インコモリクモ



アカタマスポンタケ



ハマヒルガオ



ハマエンドウ



イソスミレ

